



発行元：NPO 法人 東アジア政経アカデミー

発行元連絡先：〒168-0082 東京都杉並区久我山 4-38-14 電話：03-3332-8481 FAX：03-3332-8433

URL：http://www.eapea.sakura.ne.jp/ e-mail：shnagano@d8.dion.ne.jp

この号の内容

1 はじめに

- 創立 10 周年を振り返る！
(永野慎一郎)

2 活動報告①

- 日中韓 3 国協力 20 周年記念国際会議
- 日韓友好促進合同セミナー
- 東アジア国際フォーラム 東京会議
- 韓国憲政会東京訪問団 来日：自民党本部、参議院協会訪問
- 韓国民団東京本部主催講演会

3 活動報告②

- 日韓友好促進合同セミナー 開催次第

4 活動報告③

- 東アジア国際フォーラム東京 会議次第

編集後記

創立 10 周年を振り返る！

東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

東アジア政経アカデミーを創設して 10 周年を迎えることになりました。その間、ご支援とご協力をいただいた役員および会員の皆様に感謝申し上げます。当法人の設立目的である東アジア地域の研究機関、地方自治体などとの交流を推進し、セミナーやフォーラムなどを開催してきました。

2008 年から韓国統一研究院と共同で開催していた日韓政策フォーラムを引き継ぎ、第 4 回までは大東文化大学法科大学院会議室（信濃町）で実施し、第 5 回から第 9 回まで早稲田大学アジア太平洋研究センター及び早稲田大学韓国学研究所と共催で、早稲田大学で実施しました。

2011 年 11 月、公益法人中央日韓協会と協力し、韓国全羅南道木浦市と連携して「木浦圏海洋観光発展に関する国際セミナー」を木浦サングリアホテルで開催しました。

地方自治体の交流を推進する一環として、東京都板橋区と韓国木浦市との交流を推進しました。植民地時代、韓国入夫（尹致浩）と一緒に、身寄りのない子供たちのために木浦共生園を設立し、朝鮮戦争中、行方不明になった夫の代わりに、戦争孤児 3000 人を世話した田内千鶴子を主人公とする日韓合作映画「愛の黙示録」が 2011 年 2 月、板橋区立文化会館で上映されました。当アカデミー企画、板橋区福祉部と板橋区社会福祉協議会主催。会場は昼・夜 2 回ともほぼ満席でした。

木浦市長はじめ、市議会議員など木浦市訪問団が板橋区を訪問するなど、交流が進み、2012 年 3 月、板橋区の社会福祉関係者及び研究者が木浦訪問し、木浦福祉財団と当アカデミーの共催による日韓福祉国際セミナーが開催されました。木浦市と板橋区社会福祉協議会後援。

2018 年 9 月、東アジア政経アカデミーと秀林文化財団主催、木浦市後援の「東アジア・ローカリゼーション国際フォーラム木浦会議」が木浦で開催され、木浦市長、全羅南道副知事など地域行政責任者も出席し、東京、上海、沖縄、ソウル、木浦から著名な研究者が講演・討論しました。

2019 年 10 月、東京、上海、木浦、台中、沖縄から研究者が東京に集まり、「21 世紀における東アジアの国際化 ～ヒト・モノ・カネの移動」と題して、東アジア政経アカデミーと大東文化大学経済研究所主催の東アジア国際フォーラム東京会議が開催されました。

20 世紀初、韓国木浦駐在日本国領事に赴任した若松兎三郎が木浦地方の気候や風土を見て「陸地棉」と「天日塩」の開発を提言し、全国的な普及によって産業発展に貢献した史実を調査・研究し、『日韓をつなぐ「白い華」綿と塩 明治期外交官・若松兎三郎の生涯』（永野慎一郎著、明石書店、2017 年）を刊行しました。



東アジア国際フォーラム東京会議参加者一同



永野代表韓国憲政会訪問

左から黄鶴洙事務総長・永野代表・柳瓊賢会長・張慶宇副会長

活動報告①

◇日中韓3国協力20周年記念国際会議

永野 慎一郎代表は、2019年4月11日～13日、北京釣魚台国賓館で開催された日中韓3国協力20周年記念国際セミナーに招待され、「日中韓3国の協力と相互依存」と題して報告した。

◇日韓友好促進合同セミナー

永野 慎一郎代表は、2019年8月20日16:00～18:00、衆議院第1議員会館「国際会議室」で開催された『日韓友好促進合同セミナー』（日本国自民党外交調査会と大韓民国憲政会共同主催）の日韓両側の共同代理人として、日韓の現職及び元職国会議員たちによる合同セミナーを推進した。



憲政会会長から永野代表に渡された感謝牌



東アジア国際フォーラム東京会議各地域の参加者たち

◇東アジア国際フォーラム東京会議

2019年10月25日、「21世紀における東アジアの国際化 ～ヒト、モノ、カネの移動」と題して、東アジア政経アカデミー、大東文化大学経済研究所、大東文化大学大学院経済学研究科共同主催の東アジア国際フォーラムが大東文化大学板橋校舎2号館会議室で行われた。同フォーラムは、沖縄・上海・台中・木浦・東京の5つの地域の学者たちが相互訪問し、交流を通じて理解を深め、地域間の協力体制構築のための企画である。

◇韓国憲政会東京訪問団来日：自民党本部、参議院協会訪問

2019年11月1日、大韓民国憲政会（韓国の前職及び元職国会議員の組織）柳瓊賢会長など東京訪問団が来日され、衛藤征士郎自民党外交調査会長、鈴木俊一自民党総務会長、岸田文雄自民党政務調査会長を表敬訪問し、日韓の懸案について意見交換した。また、訪問団は参議院協会を訪問し、宮崎秀樹会長、野沢太三理事長など役員たちと懇談した。永野 慎一郎代表が案内。



鈴木俊一自民党総務会長訪問



岸田文雄自民党政務調査会長訪問

◇韓国民団東京本部主催講演会

永野 慎一郎代表は、2019年12月1日、箱根湯本で開催された韓国民団東京本部主催の在日同胞社会リーダーフォーラムにおいて「相互依存の日韓関係と在日同胞の祖国への貢献」と題して講演した。

活動報告②

『日韓友好促進合同セミナー』開催次第

日時 2019年8月20日(火)16:00~18:00

場所 衆議院第一議員会館 国際会議室『1階』

一、司会・進行 松川 るい 参議院議員・自由民主党外交調査会幹事

一、歓迎挨拶 林 芳正 参議院議員・自由民主党政調会長代理・元防衛大臣・元文部科学大臣・
元農林水産大臣

一、答礼挨拶 鄭 大哲 元国会議員・元韓国民民主党代表

一、代表祝辞

日本側：下村 博文 衆議院議員・自由民主党前幹事長代行・元文部科学大臣・元内閣官房副長官

韓国側：李 大淳 元国会議員・元通信部長官

一、参加議員紹介

日本側：松川 るい 参議院議員・自由民主党外交調査会幹事（参加議員 24名）

韓国側：李 大淳 元国会議員・元通信部長官（参加議員 24名）

一、基調講演

日本側：衛藤 征士郎 衆議院議員・自由民主党外交調査会長・元防衛庁長官・元衆議院副議長

韓国側：柳 瓊賢 大韓民国憲政会会長・元国会議員

—ここまでマスコミにオープンとする—

一、意見交換

一、記者会見

一、閉会 松川 るい 参議院議員・自由民主党外交調査会幹事—



活動報告③

東アジア国際フォーラム 東京会議次第

主題：「21 世紀における東アジアの国際化 ～ヒト・モノ・カネの移動」

日時：2019 年 10 月 25 日（金）13：15～17：00

場所：大東文化大学板橋校舎 2 号館 2 階会議室

主催：NPO 法人東アジア政経アカデミー・大東文化大学経済研究所

大東文化大学大学院経済学研究科

後援：大東文化大学経済学会

司会：池田 剛士（大東文化大学教授）

開会の挨拶：上遠野 武司（大東文化大学経済学部長）

歓迎の挨拶：永野 慎一郎（東アジア政経アカデミー代表）

祝辞：門脇 廣文（大東文化大学学長）

第 1 セッション：グローバル社会の変動と東アジア

報告 1 吳 寄 南（上海国際問題研究院諮問委員会副主任）

「グローバル化の逆流と上海市の応対策」

報告 2 名嘉座 元一（沖縄国際大学教授）

「グローバル時代における沖縄の変革」

第 2 セッション：東アジアにおける人材移動・交流

報告 3 郭 明 鴻（台中・逢甲大学大学院博士課程）

「台湾と日本の介護保険の差異について ～外国人労働者による介護の比較」

報告 4 高安 雄一（大東文化大学教授）

「韓国における中国朝鮮族同胞外国人労働者の実態に関する考察」

報告 5 朴 賛 基（木浦大学教授）

「江戸時代の朝鮮と日本学士の漢詩文・筆談の交流」

総合討論

コーディネーター：渡部 茂（大東文化大学元教授）

討論者：黄 輝 慶（逢甲大学教授）、前泊 博盛（沖縄国際大学教授）、

貫 隆夫（武蔵大学名誉教授）、ほか

閉会の挨拶：古屋 核（大東文化大学経済研究所長）



歓迎の挨拶をする永野慎一郎代表



コーディネーター渡部茂氏



吳寄南氏



左から名嘉座元一氏、黄輝慶氏



左から黄輝慶氏、高安雄一氏、朴賛基氏



左から貫隆夫氏、前泊博盛氏、名嘉座元一氏

■編集後記

今年で東アジア政経アカデミー結成から 10 年がたちます。あまりにもあっという間で信じられないのですが、永野代表の精力的な活動の御蔭で、この 10 年で本アカデミーは日韓交流には不可欠な組織になりつつあります。そして今年はその祝賀会をやりたいと思っていたのですが、コロナウイルス大流行で、暫くは儼然ない状況が続きそうです。総会開催も心配になってきました。

周知の通り、コロナウイルスの大流行は、今までの私たちの生活のあり様を大きく変えつつあります。恐らくコロナ後の社会はテレワークやオンライン会議に主軸が移り始め、対面での仕事が次第に減り始めるでしょう。そうすると、かつては対面での仕事を補うためにあった IT 技術が、IT でできないことを補うために対面で仕事をするという逆転現象が起きかねません。つまりこの先にあるのは個人社会ならぬ孤人社会だと思います。それだけに本アカデミーは今後も多くの交流を通して、程よい距離感の連携・連帯を築いていきたい所存です。いずれにせよ、1 世紀に 1 度あるかないかの社会的危機が続いておりますが、皆様、引き続きお体にお気をつけてお過ごし下さい。そしてまたいつか対面でお目にかかれましてを楽しみに致しております！（大杉由香）